

施策ページ（基本構想）は、下記のイメージで作成を進めています

基本構想

検討委員などからのご意見は、
「10年後の姿」に概念的に抽出しており、
今後、「柱の説明」「方向性」及び
実行計画に反映します

柱単位

第4 3つの柱と施策の方向性

I 学校教育の充実

（柱の説明）4～5行程度

10年後の姿

時代に即した教育環境や一人一人の教育的ニーズに応じた支援環境が整備され、情報機器の効果的な活用や地域と連携・協働した取組等の推進によって学校教育が一層充実することで、子どもたちに「確かな学力」や「豊かな人間性」、「健やかな体」といった「生きる力」が育まれています。

方向性ごと

方向性1：「確かな学力」を育成します

学力調査に基づく授業改善等を通して教員の指導力向上を図るとともに、9年間を見通した教育課程の工夫、情報機器の効果的な活用、習熟度別指導・放課後補習の充実などを通して、子どもたちの基礎学力の確実な定着を図り、さまざまな課題に対して自ら考え判断し、行動できる力を育成します。

関連する写真

第3次清瀬市教育振興基本計画は、基本理念と3つの柱、11の施策の方向性で構成されています

基本構想骨子案

※会議時点での検討状況

基本理念	3つの柱	No	施策推進の方向性
検討中 (本日の資料3)	1. 学校教育の充実	1	「確かな学力」を育成します
		2	「豊かな人間性」を育成します
		3	「健やかな体」を育成します
		4	一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実を図ります
		5	教育環境を強化・充実させます
	2. 地域による子どもの育ちと学びの支援	6	子どもたちの成長を地域で支える機運を高めます
		7	地域と協働した学校での学びの充実を図ります
		8	子どもたちの安全な居場所を充実させます
	3. 生涯学習・文化・芸術・スポーツの支援	9	世代を超えた学びの機会を提供します
		10	市民文化・芸術の充実と発展を図ります
		11	気軽にスポーツ活動に親しめる機会を提供します

近年の社会動向も踏まえつつ、清瀬市の全ての子どもが希望を持って自ら伸び、育つための学校教育を充実し、子どもたちの「生きる力」を育みます

柱1. 学校教育の充実

国や東京都の動向

■国の動向

- 第4期教育振興基本計画において、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を2040年以降の社会を見据えた教育政策の総括的な基本方針として位置付け、多様な生徒それぞれが幸せや生きがいを感じられる教育の在り方が再認識されている。

■東京都の動向

- 誰一人取り残さず、全ての子どもが将来への希望を持って自ら伸び、育つ教育を目指しており、デジタルを活用した学び方や世界を舞台に活躍できる人材の育成、一人ひとりの子どもの状況に応じたきめ細かな教育の充実、教育の質の向上などに優先的に取り組むと掲げられている。

清瀬市の動向

■現行計画の振り返り

- GIGA構想による1人一台端末の整備による授業や家庭学習の在り方の変化、コロナ禍への対応や働き方改革の推進等、学校教育全体の変革が求められてきた中、社会の変化に応じた対応を、学校と共に一つ一つ取り組んできたことにより、「生きる力」「考える力」を育む学校教育は着実に進められている。

■清瀬市を取り巻く現状

- 教職員や支援員等の不足や1人一台端末の更新等、新たな課題が生じている現状を踏まえ、国や都の動向を注視しながら対応を検討していく必要がある。

10年後の目指す姿

- 時代に即した教育環境や一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援環境が整備され、情報機器の効果的な活用や体験活動の意図的・計画的な実施等の推進によって学校教育が一層充実することで、子どもたちに「確かな学力」や「豊かな人間性」、「健やかな体」といった「生きる力」が育まれています。

「確かな学力」の育成に向け、教員の指導力向上や情報機器の効果的な活用、習熟度別指導など教育の質向上に繋がる取組を進めます

方向性1：「確かな学力」を育成します

清瀬市の動向

■ 現行計画の振り返り

- ・ 市内各学校では、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえ、1人一台端末の効果的な活用を図りながら、授業改善に取り組んでいる。
- ・ 確かな学力を育成するため、教員の指導力向上を図るとともに、幼保小の円滑な接続や小中連携教育の推進、情報機器の効果的な活用等の取組を計画的に進めていく必要がある。

■ 清瀬市を取り巻く現状

- ・ 文部科学省の「全国学力学習状況調査」における平均正答率は、小学校では国の平均とほぼ同程度だったが、中学校では2ポイント程度上回っており、授業改善の一つの成果である。

めざすべき姿の実現に向けた施策推進の方向性

- ・ 学力調査に基づく授業改善等を通して教員の指導力向上を図るとともに、9年間を見通した教育課程の工夫、情報機器の効果的な活用、習熟度別指導・放課後補習の充実などを通して、子どもたちの基礎学力の確実な定着を図り、さまざまな課題に対して自ら考え判断し、行動できる力を育成します。

「豊かな人間性」の育成に向け、人権教育や道徳教育、命の教育の充実に加え、体験活動や読書活動などの子どもの主体性を高める取組を進めます

方向性2：「豊かな人間性」を育成します

清瀬市の動向

■現行計画の振り返り

- ・ 清瀬市が実施している学校環境適応感尺度「アセス」を全校で実施し、配慮が必要な児童・生徒の抽出やケアなどに努めてきた。
- ・ 豊かな心を育成するため、命の教育の充実を図るとともに、体験活動の充実や読書活動の推進等の取組を計画的に進めていく必要がある。

■清瀬市を取り巻く現状

- ・ 児童・生徒の「自己肯定感」にかかわるアンケート調査の肯定的回答率は、小学校で86.2%、中学校で87.2%と高い結果が得られており、各学校において、子どもたちの「撓やか（しなやか）で強か（したたか）な心」と、豊かな人間性を培うための教育が適切に行われてきた成果である。

めざすべき姿の実現に向けた施策推進の方向性

- ・ 人権教育や道徳教育、命の教育の充実を図るとともに、読書活動や様々な体験活動の意図的・計画的な推進を通して、また、子どもたちの主体性を高める取組を工夫することで、豊かな心と撓やかで強かな心を育成します。

「健やかな体」の育成に向け、運動の日常化や健康教育の推進など、児童・生徒の体力向上に繋がる取組を進めます

方向性3：「健やかな体」を育成します

清瀬市の動向

■ 現行計画の振り返り

- ・ 体育や保健体育の授業に加え、運動の日常化に向けた取組を工夫するよう各校への指導や、健康教育の推進、食育の充実等の取組を計画的に進め、児童・生徒の体力向上のための取組を進めてきた。

■ 清瀬市を取り巻く現状

- ・ 一方、東京都児童・生徒体力・運動能力調査の合計点は、小学校、中学校共に、都の平均よりも低い結果となっており、体力向上については、各学校において継続して取組の改善を図っていく必要がある。

めざすべき姿の実現に向けた施策推進の方向性

- ・ 健康教育や食育等、自らの健康を保持増進できる力を高めるための取組の充実を図ります。また、体力テストに基づく授業改善や、家庭や地域と連携した運動の日常化などを通して、子どもたちの体力の向上を図ります。

子ども一人ひとりの状況やニーズに応じた支援の充実を図り、誰一人取り残さないための取組を進めます

方向性4：一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実を図ります

清瀬市の動向

■ 現行計画の振り返り

- ・ 不登校及び不登校傾向の児童・生徒一人ひとりの状況に応じた支援を充実させるため、特に中学校全校において、校内別室指導を行うと共に、不登校対応巡回教員による各中学校における支援体制等への指導を行ってきた。
- ・ また、学校のニーズと地域人材をコーディネートし、地域の人々が学校運営に関わる仕組みを通じ、地域ぐるみで子どもを育む取組を推進している。
- ・ 令和7年度からは市立小中学校全校がコミュニティ・スクールとなるため、学校と地域の連携・協働の一層の充実を図っていく。

■ 清瀬市を取り巻く現状

- ・ 特別支援学級の再編計画を適切に進めてきたことにより、保護者や地域の特別支援教育に関する理解は深まってきている。
- ・ 一方で、不登校児童・生徒は年々、増加傾向にあり、喫緊の課題となっている。

めざすべき姿の実現に向けた施策推進の方向性

- ・ 特別支援教育の充実や不登校支援の推進などを通して、子ども一人ひとりのニーズに応じた支援の充実を図ります。また、教員研修を実施したり、特別支援教育や不登校支援の取組等を広く周知したりすることで、教員、子ども、保護者、地域に向けた理解・啓発を推進します。

学校施設やICTなど子どもの学びの環境整備に加え、教員の働きやすさも含めた双方にとっての教育環境の強化・充実の取組を進めます

方向性5：教育環境を強化・充実させます

清瀬市の動向

■ 現行計画の振り返り

- ・ GIGAスクール構想による1人一台端末の整備により、個別最適な学びや協働的な学びを支える学習環境を整えることができた。
- ・ 加えて、「学校・家庭間の連絡アプリ」「自動採点システム」などデジタルツールの導入やスクールサポートスタッフなどの支援員の拡充を図り、教員の働き方改革に資する取組も進めることができた。

■ 清瀬市を取り巻く現状

- ・ 学校施設の老朽化が大きな課題となっており、子どもたちが安心して学校生活を送り、教育効果を最大限高めるための環境整備が必要。
- ・ 特に、今後10年間で建築後60年を経過する建物について、計画的な予防修繕を行うことで、建物の長寿命化を図る必要があり、財政負担が大きくなることが想定されている。
- ・ また、教職員や支援員等の不足の課題が顕在化しており、これら教育者が心身ともに健康に、やりがいを感じながら職務に取り組める環境を整備していく必要がある。

めざすべき姿の実現に向けた施策推進の方向性

- ・ 学校施設やICT環境など、子どもたちの学びの環境を整備し、安心して学校生活を送り、教育的な効果が最大限に高められた環境の中で学ぶことができるようにします。また、教員が心身ともに健康に、やりがいを感じながら、職務に取り組める環境の整備を図るため、学校における働き方改革を推進します。

学校と地域や家庭、NPOなど様々な主体が連携・協働し、子どもたちの健やかな育ちと学びを支援します

柱2. 地域による子どもの育ちと学びの支援

国や東京都の動向

■国の動向

- 第4期教育振興基本計画では、「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」が教育政策に関する基本的な方針の一つとして挙げられており、地域コミュニティや社会教育施設の活用を通じ、地域全体で子供を育む仕組みを強化することが重要とされている。

■東京都の動向

- 東京都教育ビジョンでは、目指す教育の実現に向けた12の基本的な方針の一つとして「家庭・地域・社会と学校とが連携・協働する教育活動の推進」が挙げられており、様々な主体が学校と連携・協働して地域全体で子育てや教育に取り組む体制を確立することが重要とされている。

清瀬市の動向

■現行計画の振り返り

- 学校支援本部の全校設置と、コミュニティスクールの導入、説明会の実施などにより、地域と学校が協働して子ども達を育み取組を推進することができた。
- 児童センターの指定管理者制度導入や地域団体による子供食堂の実施など民間活力の活用が進んでおり、全校に設置した放課後子ども教室で地域人材を活用するなど、安心・安全な居場所づくりと地域で子どもを育む取組みが進んでいる。

■清瀬市を取り巻く現状

- 子どもが地域等で自分らしく表現する場が十分あると思う人の割合について、「どちらともいえない」が過半数を超え、次いで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が約25%と高い傾向が続いている。

10年後の目指す姿

- 学校と地域の連携・協働により、子どもたちが心身共に健やかに成長し、すべての子どもが地域に見守られ、安心して学び育つ環境が整っています。

放課後子ども教室で地域の人材を活用するなど、地域の人々とのさまざまな交流を通じて子どもたちの成長を地域で支える機運を高めます

方向性1：子どもたちの成長を地域で支える機運を高めます

清瀬市の動向

■ 現行計画の振り返り

- ・ 地域の人材活用により、地域の中で子どもたちを育む意識の醸成も進めることができている。
- ・ 市内NPO法人などによる子供食堂事業の展開や、居場所づくりが進んでいる。
- ・ 児童センターの指定管理者制度導入や地域団体による子供食堂の実施など民間活力の活用が進んでおり、全校に設置した放課後子ども教室で地域人材を活用するなど、安心・安全な居場所づくりと地域で子どもを育む取組みが進んでいる。

■ 清瀬市を取り巻く現状

- ・ 地域のつながりや交流ができていると思う人の割合について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した人は、約32%(2017年)から約23%(2023年)へと減少している。
- ・ 子どもや若者が地域で見守られていると思う人の割合について、「どちらともいえない」が約半数となっており、次いで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が約30%と高い傾向が続いている。

めざすべき姿の実現に向けた施策推進の方向性

- ・ 子どもたちが人とのつながりを感じながら、多様な人々との関わりを通して社会性や人間性を育み、安心して成長できるよう、市民同士がつながり合うとともに、教育・福祉・防犯などの関係機関と連携し、地域ぐるみで子どもたちを見守り育てる機運を醸成します。

学校支援本部やコミュニティスクールなどを通じて、学校が地域と連携する機会を増やし、地域と協働して学校での学びをより充実させます

方向性2：地域と協働した学校での学びの充実を図ります

清瀬市の動向

■ 現行計画の振り返り

- ・ 全校への学校支援本部の設置及びコミュニティスクールの設置推進により、地域と学校の連携推進の取り組みを進めることができた。
- ・ コミュニティスクールや学校支援本部の継続的な活動により、地域で子どもを育てる意識の醸成が進んでおり「地域連携による学校教育」に関する施策の重要度が増加している（R2：19.8%→R5：23.8%）
- ・ コミュニティスクールや学校支援本部に対する理解を深め、多くの地域の方々や保護者の参画意識を高める必要がある。

■ 清瀬市を取り巻く現状

- ・ コミュニティスクールを全14校（小中学校）に導入、導入率100%となった。
- ・ 学校の行事に協力したり参加したりしたことがある人の割合について、「いいえ」と回答した人は43.7%(2017年)から50.8%(2023年)へと増加している。

めざすべき姿の実現に向けた施策推進の方向性

- ・ 学校が地域と連携し、体験活動や探究的な学びを学習活動に位置づけて推進し、子どもたちが地域の多様な人材や体験と出会い、学びを深められるようにします。また、学校の取組に地域が関心を寄せ、理解し支える関係づくりを進め、地域総がかりで子どもを育む環境の一端を担います。

児童センターや放課後子ども教室、子ども食堂など、子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所の充実を図ります

方向性3：子どもたちの安全な居場所を充実させます

清瀬市の動向

■現行計画の振り返り

- ・ 不登校児童・生徒は、増加傾向にあり、低年齢化も見られている。中学校全校で校内別室指導を実施しており、今後は、小学校にも拡充を図っていく予定である。
- ・ 児童センターの指定管理制度導入による民間活力の活用や、地域住民や地域高齢者に参画いただいている放課後子ども教室事業、子供食堂の活動の継続により、子どもたちの居場所づくりが出来ている。
- ・ 共働き世帯の増加や、核家族化により、子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所づくりが求められている。

■清瀬市を取り巻く現状

- ・ 不登校児童・生徒数は2020年から2023年にかけて年々増加している。
- ・ 家は居心地がいいかという質問に対し、小学生から高校生まですべての年代で約9割以上の子どもが「よい」と回答した。
- ・ 学校は居心地がいいかという質問に対し、小学生から高校生まですべての年代で約8割以上の子どもが「よい」と回答した。
- ・ 家や学校以外で居心地の良い場所があるかという質問に対し、小学生は約7割以上、中学生と高校生は半数以上の子どもが「はい」と回答した。

めざすべき姿の実現に向けた施策推進の方向性

- ・ 安心して過ごせる居場所として児童館や学童クラブ、放課後子ども教室『まなべー』を配置し、異年齢交流や集団活動などを通じて子どもたちの社会を生き抜くための力や、人と関わりながら自己を成長させる力が育まれ、心身ともに健やかに成長できる環境を整えます。

人生100年時代を迎える中、市民誰もが生涯学習や文化・芸術、スポーツに親しむ機会を持ち、健康で心豊かな生活が送れる環境づくりに取り組みます

柱3. 生涯学習・文化・芸術・スポーツの支援

国や東京都の動向

■国の動向

- ・ 人生100年時代を迎える中、社会人が自らの知識やスキルをアップデートする「リスキリング」「リカレント教育」の必要性が高まっている。
- ・ デジタル技術が急速に発展する中、社会教育施設のデジタル環境の整備やデジタル技術を活用した学びを提供していく必要がある。
- ・ 高齢者、障害者、外国人等、社会的に制約のある人に対しても社会教育の提供が十分に確保されるようにしていく必要がある。
- ・ 社会教育を通じて、住民自身が主体的に学ぶ意思を持ち、教え学び合う当事者となり、学習成果が地域活動に還元されるような循環が期待されている。

■東京都の動向

- ・ 今年度の「第13期東京都生涯学習審議会」では「これからの東京の地域教育の在り方について」を審議事項とし、具体的には「共生社会の実現に向けた多様な主体との連携協働」「地域と学校の連携協働」がテーマとなっている。

清瀬市の動向

■現行計画の振り返り

- ・ 子供向けには「きよせ子ども大学」の開講、一般の方向けには指定管理者によるイベント・講座などの自主事業や市民主体で行う市民文化祭などを通じて、生涯学習の機会を提供することができた。
- ・ 照明のLED化や市民体育館耐震化、内山運動公園サッカー場の芝生張替などの環境整備を実施した。

■清瀬市を取り巻く現状

- ・ 「この一年間で生涯学習を行う機会を持つことができた人の割合」は減少している。
- ・ 「これまで身に付けた知識や技術を自分以外のために活かしている人の割合」も減少している。

10年後の目指す姿

- ・ 市民誰もが生涯学習や文化・芸術、スポーツに親しむ機会を持ち、健康で心豊かな生活を送っています。また、そのような活動を通じて、地域で活躍する市民が増え、支え合えるコミュニティが生まれています。

生涯学習にかかる機関と連携し、幅広い世代の生涯学習の機会の充実を図るとともに、 得た知識や技能を地域へ活用できる場の創出を行います

方向性1：世代を超えた学びの機会を提供します

清瀬市の動向

■ 現行計画の振り返り

- 生涯学習センターやコミュニティプラザなど公共施設の管理運営に指定管理者制度を導入し、自主事業等により生涯学習の機会の提供が進んでいる。
- 市民が主体となって市民文化祭や石田波郷俳句大会を実施することにより、学びの循環が進んでいる。
- 市内の関係機関との連携によるきよせ子ども大学が開校し、学校では学べない、教科の枠を超えた学びの場を提供している。
- 施設のLED化や設備整備などにより、生涯学習環境の整備を実施した。
- きよせ子ども大学の拡充など、体験機会の提供や、施設整備による生涯学習環境の充実が必要である。

■ 清瀬市を取り巻く現状

- 「この一年間で生涯学習を行う機会を持つことができた人の割合」は減少している。（再掲）
- 「これまで身に付けた知識や技術を自分以外のために活かしている人の割合」も減少している。（再掲）

めざすべき姿の実現に向けた施策推進の方向性

- 生涯学習にかかる機関と連携し、市民ニーズに応じた生涯学習事業を展開し、幅広い世代の生涯学習の機会を充実させます。また、市民が生涯を通じて意欲的に学び続けることができ、得た知識や技能を地域へ活用できる場の創出を図ります。

市民が主体的に文化・芸術活動に取り組めるよう支援を行うとともに、市民の文化的・創造的な交流や共感を促進します

方向性2：市民文化・芸術の充実と発展を図ります

清瀬市の動向

■ 現行計画の振り返り

- 文化活動については、コロナが5類に移行し公共施設の利用制限が緩和されたことや、指定管理者による自主事業により、機会の提供が進んだ。
- スポーツ、文化活動ともに、指定管理者による自主事業の実施や、各種大会、市民文化祭の実施などにより、各活動に触れる機会の提供を実施できた。
- コロナ禍を経てテレワークなどの新たな働き方が普及したことで外出の機会が減少し、それにより生じた余暇の時間を、趣味などに充てる方が増えたことから「文化・芸術・スポーツ活動の支援」に関する施策の重要度が増加している。
- 文化活動については、郷土博物館における特別展の開催や指定管理者による自主事業の実施により、芸術文化に触れる機会の提供を行った。

■ 清瀬市を取り巻く現状

- 「この一年で芸術・文化に接したことがある人の割合」は増加している。

めざすべき姿の実現に向けた施策推進の方向性

- 市民が主体的に文化・芸術活動に取り組めるよう支援を行い、身近な場で創造的な体験を楽しめる機会を提供します。さらに、地域で育まれた文化・芸術の価値を共有・発信することで市民の文化的・創造的な交流や共感を促進し、心豊かな生活を支える施策を展開します。

市民が気軽にスポーツ活動に親しむことができる環境を整備やスポーツ振興やイベントを推進する人材を育成し、スポーツの普及と市民の健康の増進、交流の活性化を図ります

方向性3：気軽にスポーツ活動に親しめる機会を提供します

清瀬市の動向

■現行計画の振り返り

- ・ スポーツ、文化活動ともに、指定管理者による自主事業の実施や、各種大会、市民文化祭の実施などにより、各活動に触れる機会の提供を実施できた。
- ・ スポーツ施設の老朽化が進んでおり、快適にご利用いただくため、施設の維持管理、設備・備品などの更新が必要である。
- ・ 体育施設については、施設全体の課題はあるものの、日常の維持管理及び運営については指定管理者により円滑かつ適切に実施することができた。

■清瀬市を取り巻く現状

- ・ 「この一年でスポーツ・レクリエーションに参加したことがある人の割合」は減少している。

めざすべき姿の実現に向けた施策推進の方向性

- ・ 市民が気軽にスポーツ活動に親しむことができる環境を整備するとともに、多様な機会や場の充実を図ります。また、地域のスポーツ振興やイベントを推進する人材を育成し、協働の充実を図ることで、スポーツの普及を進めるとともに市民の健康の増進や交流の活性化を目指します。